



うきただより

～本校の教育目標～『学ぶ子 やさしい子 元気な子』

令和8年8月31日発行
令和8年度学校だより第5号
江戸川区立宇喜田小学校
校長 中田 伸代
在籍児童数 419 名
☎ 03-3689-1291



本気で「その時」に備える

校長 中田 伸代

学校に子供たちの笑顔が戻ってきました。大きな事故やけがなどがなく、元気に2学期を迎えることができたことを嬉しく思います。一方で、令和8年熊本地震や千葉・北陸3県での豪雨災害など大変な被害があった夏休みでもありました。被災された皆様、心よりお見舞い申し上げます。

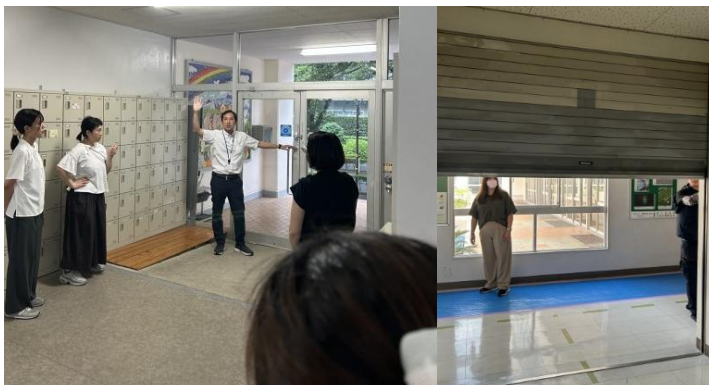
さて、地震や豪雨のニュースを見ながら、私が初任者の時に伊豆七島の新島に着任していたときのことを思い出しました。新島は東京の竹芝桟橋から船で8時間、約123キロほど離れた海上に浮かぶ島です。着任当時、台風が来る度に、島の人たちが漁船を港から揚げて、「モヤイ結び」で船同士をつなぎ、家々の窓に板を打ち付けて準備をする姿を見かけました。また全島で行う避難訓練では、島民全て、寝たきりのおばあさんまで、ヘルメットをかぶり、おんぶされて、学校、そして浜まで一人残らず避難する訓練を行っていました。東京で生まれ育った私には、正直「なんでここまで」と思うこともありました。しかし、「その時」はやってきました。

着任して3年目の9月、伊豆七島を直撃した台風は、最大瞬間風速55.4m/s、八丈島で当時の観測史上第1位の最低海面気圧932hPaを記録しました。登校した児童を集団下校させる準備をし、校庭に出た時、1年生の小さな女の子が傘を開いたとたん、強風で身体が持ち上がり、飛ばされそうになりました。必死で走り寄り、泥だらけ、ずぶ濡れになりながらも何とか、女の子の身体にしがみつき、助けることができました。

全児童の下校が完了して、島の高台にある教員住宅に車で戻ろうとしていたときです。突然走っていた道路の坂道の上から、鉄砲水のように水が押し寄せてきて、川の中にあるようになってしまいました。ドアを開けようとしたが水の重さで開きません。そうこうするうちに軽自動車の車体が浮いて流れ始めました。そのまま海に流されたらと恐怖を感じたとき、運よく道路脇の木に車がひっかかり、助かりました。まさに「九死に一生を得た」心地がいたしました。「嵐が来ているときは動いてはいけない」と、強く感じた経験でした。

翌日、島の被害は甚大でした。電柱が何本も倒れて停電になり、窓ガラスが割れたり、裏山がくずれて自宅が半壊や損壊した児童もいました。しかし、人的被害がありませんでした。島の人たちが、日頃から「その時」に備えて本気で準備していたからだ強く感じ、島での生活の中で、本気で「その時」に備えること、「油断をしない」ことの大切さを学ばせていただいた4年間でした。

最近、東京でも、都市型豪雨や地震などが頻繁に起こるようになりました。学校でも、様々な場面を想定して、シュミレーションをし、子供たちの命と安全を守るように、教職員一同準備をして参ります。ただし、どんなに準備をしても、「その時」の状況に応じて、自分たちで考え、行動できる判断力、行動力が大切だと思います。ご家庭でもお子さんたちと「その時」にどうするのか、どこに避難し、どこで会うのかなど、お話をしておくと思いいます。



教職員による防災訓練の様子